

令和6年度

# 学生によるオレンジリボン運動

聖泉大学別科助産専攻 実施報告書



実施主体 聖泉大学 別科助産専攻 10期生

実施内容 令和6年6月15日 帯祝いとオレンジリボン運動

## ①事前に取り組んだ内容

入学前の課題図書、『子供の脳を傷つける親たち』を読んで、子どもにとって、多くの時間を共に過ごす家族からのマルトリートメントは目に見える傷だけでなく、心の傷や、脳の発達、子どもの自己肯定感などにも影響があることを学びました。幼少時に受けた虐待は児の人生を左右することから、早急に児童虐待を減らしていく必要があると考え、入学後に助産学生が主体となって、さらに情報収集をし、企画書作成をゼロからおこないました。

## ②実施期間に取り組んだ具体的内容

会場は多賀大社境内絵馬殿で、総務部と打ち合わせを行ない、現場のレイアウトや動線を確認しました。受付、ベビーマッサージと着帯の技術アップ、オキシトシンについてのクイズ、赤ちゃん抱っこ体験、メッセージカードの記入などの各ブースでの内容を吟味し、必要物品を購入し、配布資料やアンケートの準備後、リハーサルを何度も繰り返して当日に備えました。

## ③オレンジリボン運動を終えて…

全体の参加人数は老若男女合わせ188人でした。妊婦だけでなく、夫や子ども、育児を経験してこられた方、高齢者など沢山の方々に参加していただき、虐待予防について考えるきっかけを提供することができました。アンケートにおいて、「貴重な体験ができた」「腹帯の良さやスキップの大切さを知れた」「もう少しで孫が生まれるが初心に帰って協力したいと思った」との意見があり、母子愛着形成やスキップの方法を知る機会に繋がりました。メッセージボードを作ったことで、子どもを守ってくれる人は周りに沢山いて、母親が1人で抱え込まなくて良いことをアピールできました。

